

今月のトピックス

- 1 インフルエンザ(B 型が主流)が流行しています。
- 1 麻しんの海外輸入例が首都圏で増加しています。

全数把握の対象

【2 月期に報告された全数把握疾患】

| | | | |
|------------------------|-----|----------------|-----|
| レジオネラ症 | 1 件 | 侵襲性インフルエンザ菌感染症 | 1 件 |
| アメーバ赤痢 | 2 件 | 侵襲性肺炎球菌感染症 | 3 件 |
| クロイツフェルト・ヤコブ病 | 2 件 | 風しん | 8 件 |
| 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む) | 2 件 | 麻しん | 2 件 |

- 1 **レジオネラ症**:肺炎型 1 件の報告がありました。水系感染が推定されています。
- 2 **アメーバ赤痢**:2 件の報告があり、うち 1 件は腸管アメーバ症で国内での感染が推定されていますが感染経路等不明、もう 1 件は腸管外アメーバ症(肝膿瘍)で、感染経路感染地域等不明でした。
- 3 **クロイツフェルト・ヤコブ病**:2 件の古典型 CJD の報告があり、どちらも診断の確実度はほぼ確実です。
- 4 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**:無症状病原体保有者 2 件の報告があり、どちらも同性間性的接触による感染が推定されていますが、感染地域等は不明です。
- 5 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**: 80 歳代女性 1 件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。肺炎が認められ、血清型は型別不能でした。
- 6 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 3 件(90 歳代女性、80 歳代男性、乳児)の報告がありました。そのうち、乳児 1 件(血清型検査中)はワクチン接種歴が 4 回ありましたが、90 歳代女性(血清型 6 型)と 80 歳代男性(血清型 11 型)はワクチン接種歴が確認できませんでした。予防にはワクチン接種が重要です。
- 7 **風しん**:8 件(男性 3 件、女性 5 件)の報告がありました。予防接種歴が 1 回確認されたのは女性 2 名(どちらも臨床診断例)で、他は予防接種歴が確認できませんでした。風しんは従来 2 月～3 月の早春から初夏頃が流行時期なので今後の注意が必要です。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。予防接種の助成が実施(3 月末まで)されています。先天性風しん症候群の発生には、妊婦が風しんに罹患してから出産するまでの期間のずれがあるので注意が必要です。

[横浜市の風しん予防接種助成の詳細](#)(保健所)

- 8 **麻しん**:2 件の報告がありました。1 件は乳児(ワクチン接種歴無し)で、海外渡航歴や海外での感染者との接触はありませんでしたが、遺伝子型で B3(海外由来の麻しんウイルスのタイプ)が検出されています。もう 1 件は 20 歳代女性(ワクチン接種歴不明)で、現在 PCR 等検査中です。現在フィリピンなどでは麻しんが流行しており、海外からの輸入例が、特に首都圏で増えています。海外渡航歴や海外の人との接触が考えられる患者の診察では留意が必要です。さらに、国内発生の事例では、本人の気づかないところで海外からの輸入例と接触し、感染したことが疑われる事例が報告されているので注意が必要です(参考:[麻しん臨時情報](#))。麻しんの予防には 2 回の予防接種が必要です。定期予防接種(1 回目:1 歳以上 2 歳未満、2 回目:5 歳から 7 歳未満で小学校就学前 1 年間)で、麻しん・風しん混合ワクチン(MR ワクチン)を確実に接種しましょう。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期の PCR 検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

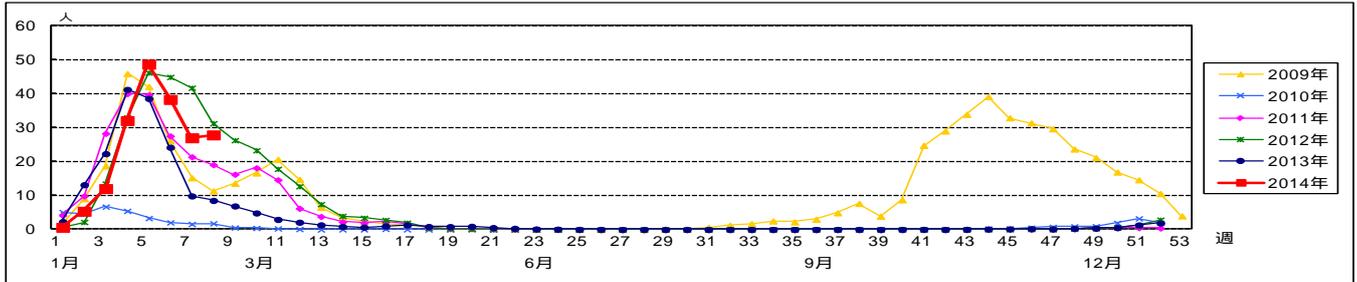
定点把握の対象

- 1 **インフルエンザ**:市全体の定点あたりの患者報告数は、第 5 週の 48.74 をピークに減少を続けていましたが、第 8 週は 27.90 と、前週の 27.05 からやや上昇に転じました。迅速キット結果報告では B 型が増加しており、その影響と考えられます。衛生研究所で検出した結果では、B 型(山形系統)が多く検出されています。また、衛生研究所で AH1pdm09 型の 61 株を検査したところ、耐性ミックス株(275H/Y)(注:薬剤治療中または治療後の患者の検体からは、薬剤により耐性が誘導された株と通常の株がミックスされたもの(耐性ミックス株)が検出されることがあります。通常はそのウイルスが地域で流行することはありません。最近話題になっている耐性株とは異なります。)が 3 株見つっていますが、耐性株(275Y)は見つかりません。

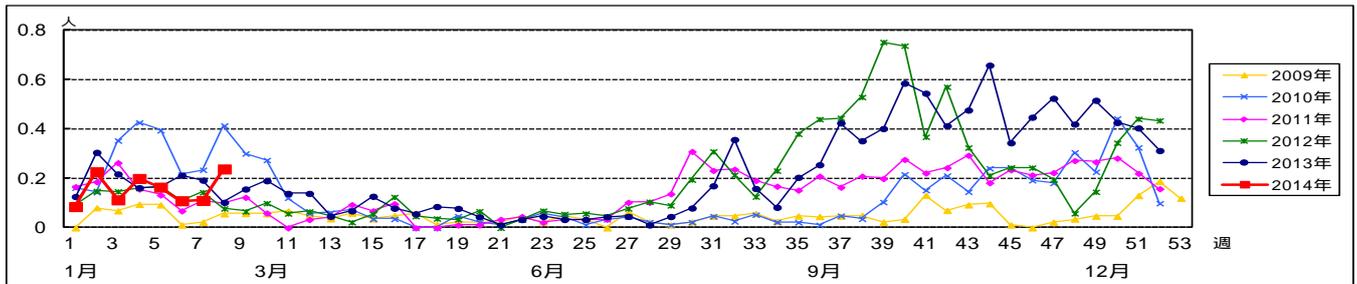
| 平成 26 年 週 - 月日対照表 | |
|-------------------|--------------------|
| 第 5 週 | 1 月 27 日 ~ 2 月 2 日 |
| 第 6 週 | 2 月 3 日 ~ 9 日 |
| 第 7 週 | 2 月 10 日 ~ 16 日 |
| 第 8 週 | 2 月 17 日 ~ 23 日 |

[横浜市インフルエンザ臨時情報](#)(衛生研究所)

[インフルエンザ予防チラシ](#)(横浜市)

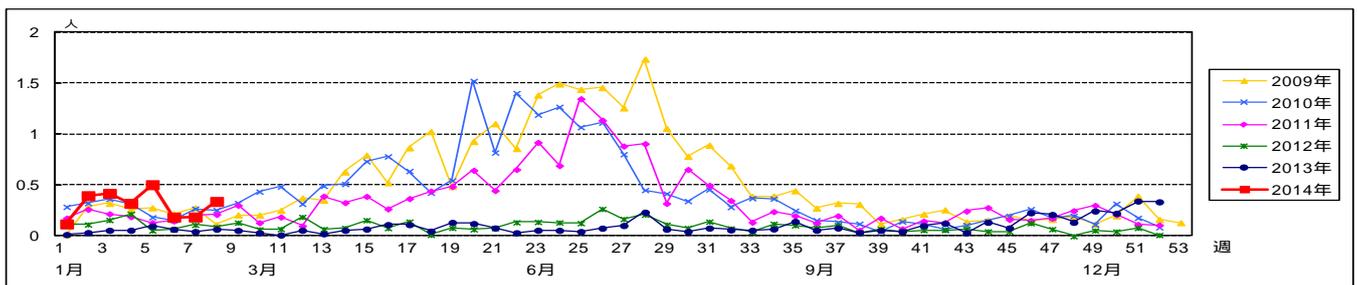


- 2 **RS ウイルス感染症**:第 8 週は定点あたり 0.24 と、例年に比べ時期としては報告数が多くなっています。



- 3 **伝染性紅斑**:第 8 週は定点あたり 0.34 と、例年に比べ時期としては報告数が多くなっています。中区では 2.00 と、警報レベルとなっています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルス B19(以下 B19)感染症の臨床像です。B19 感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常(胎児水腫)および流産があります。

[伝染性紅斑について](#)(国立感染症研究所)



- 4 **性感染症**:1 月は、性器クラミジア感染症は男性が 26 件、女性が 7 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 8 件、女性が 10 件です。尖圭コンジローマは男性 6 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 14 件、女性が 2 件でした。
- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第 5 週 0.00、第 6 週 0.50、第 7 週 0.25、第 8 週 0.00 と落ち着いています。感染性胃腸炎、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**:1 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 4 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>